

朱子学原理主義の国

新井 宏

李氏朝鮮や現代韓国の歴史を学びながら、漠然と感じていたことは、それがイスラム原理主義に似ているということであった。とにかく李氏朝鮮時代激しい党派抗争が朱子学党派間で延々と行われていた。例えば、王后の服喪期間を一年とするか三年とするかを巡って、数次にわたり二十年間近く争い、互いに傷つけていた。

他者からみればどちらでも良さそうなことが、朱子学の礼法に叶っているか否かが大問題で、あたかも朱子学原理主義ともいえるべき状況を示していた。

もし朱子学原理主義という言葉があるなら、いまや、世界の主要な「紛争源」については、イスラム国家（イスラム原理主義）、米国トランプ大統領（キリスト教原理主義＝福音派）、そして朝鮮半島問題（朱子学原理主義）と、原理主義をキーワードにして主な紛争原因を説明出来るようにも思える。

イスラム原理主義は、憲法や法律、自由、人権などの

上にイスラム教が在るとして、聖典コーランやイスラム法に基づき国家や社会を統制する主張で、イラク・シリアにまたがる「イスラム国家」やパレスチナのハマス、世界各地のアルカイダなど、いわば過激派イスラムが、しばしば国際政治の秩序と衝突していることは周知であろう。

それに対して、キリスト教原理主義は、日本ではあまり知られていないが、米国におけるプロテスタント福音派など、聖書に書かれたことを絶対視する白人保守派の教義で、地動説や進化論に否定的であり、妊娠中絶、同性愛を認めず、政治的には共和党の基盤を形成している。

トランプ大統領の誕生に際して、米人口の四分の一を占め、その八十%が支持した福音派の影響は大きかった。多くの国々が反対しているにもかかわらず、トランプが米国大使館をエルサレムに移転したのも、キリストが復活する地と信じている福音派への贈り物である。

さて、最後の朱子学原理主義は、筆者が勝手に命名し

た表現と思っていたが、良く調べてみると既に使われていた。もっとも多神教の仏教やヒンドゥー教にも原理主義という言葉があるのでそれほどポピュラーの用語ではないようだ。柔軟性に欠け理念優先、「恨」により時効概念に欠けていることなどを理由にすれば、用語として定着するかも知れない。

李氏朝鮮における残忍で頻繁な政権交代は、ほとんどが朱子学の党派間の「士禍」であった。その流れは、現代韓国においても続き、歴代大統領の内、中継的な大統領二名を除き、九名全員が亡命、暗殺、死刑判決(後恩赦)、親族の懲役刑、自殺、そして最近の李明博、朴槿恵の長期懲役判決など、報復の連鎖の中にある。

もちろん、現代韓国で今も「朱子学」が盛行しているわけではない。むしろ漢字を廃止した韓国では朱子学が話題になることさえほとんどない。それにもかかわらず、朱子学の影響が韓国を覆っているのは、朱子学が一般庶民の生活規範として植え付けた「道徳志向性」のせいらしい。

このことについてソウル大で韓国哲学を研究した京大教授小倉紀蔵は「韓国の道徳指向性は、韓国人がいつも道徳的に生きているということではなく、すべての言動を道徳に還元して評価する」ことにあると解説する。

以上、ここに挙げた原理主義は、かならずしも同じ意

味を持つものではないが、対立する政策や正邪、善悪の判断に当たって、先鋭化した「教義」「道徳」を基準原理として、相互の妥協を排する傾向があり、紛争の泥沼化を助長する厄介者である。

一般的に言って、異なる価値観の「正義」と「正義」の対立を呼んだ時に悲劇が生まれる。現代社会は、対立する理念や利害を「法」とか「外交」など制度化された「妥協」によって辛うじてバランスを保っているのに、そこで独善的な「正義」を振り回わされては始末が悪い。

実は、いま原理主義のことを書き始めたのは、本庶佑先生が今年のノーベル生理学賞を受賞したのがきっかけで、本庶先生の受賞談話がとても刺激的で面白かったからである。

教科書に書いてあることは信じない。ネイチャーやサイエンス(の論文)も十年たてば残っているのは一割だ。自分の目で確信できるまでやる。自分の頭で考えて納得できるまでやる。

かなり過激な発言であるが、おそらくノーベル賞受賞者の多くが、似たような考え方を持って研究していたと思う。

科学分野のノーベル賞の発表時期になると韓国は憂鬱である。日本では既に二十六名も受賞しているのに、韓

国では未だ零であり、事前の候補に挙げられる有力な研究もあまりない。国別の研究開発費総額の対GDP比率を見ると、韓国はイスラエルを抜いて既に世界一位なのに、どうして基礎研究がこれほど不毛なのかと、毎年のように懺悔、慷慨している。

もちろん受賞者が出ないのは、歴史的発展過程の問題であって、いずれ韓国の時代が来るかもしれない。しかし、同じく第二次大戦後建国で、人口が六分の一のイスラエルは既に六名もの科学系ノーベル賞を輩出している。韓国の大学に足かけ八年間通った頃から感じていたことであるが、韓国ではみんなが即効性のある研究ばかり後追いしている。それも研究費を取得するため、空想的な「作文」まで駆使して予算を獲得して、いざ研究をスタートしようとしても、手がかりも無く終ってしまうケースも多い。

そこに本庶先生の発言である。

「教科書に書いてあることは信じない」。

それは朱子学の道徳志向、すなわち君臣・父子・夫婦・長幼・朋友の上下関係的な道徳観の基では厳しく抑制されてしまっていた。

歴史上では「本来あるべき姿」と「実際に起きたこと」が一致しないことなど珍しくない。ところが韓国のように虐げられた歴史を持つ国ではその「落差」が「恨」と

して沈着し、時が来ると、事後的であつてもその落差を正そうとする。それが朱子学的な正義であり、いまや韓国に蔓延している「積弊清算」である。中でもその主原因を外部に求めることができる「国民情緒」の大合唱がおきる。慰安婦問題、徴用工訴訟問題などである。

このように原理主義の世界では「本来あるべき姿」には時効がない。歴史を法によって裁くことはできないので、法の上に存在する「国民情緒」を動員して「積弊清算」をするのである。

それは慰安婦問題、徴用工訴訟問題に限らない。例えば、二〇一二年、対馬の重要文化財の仏像が韓国人により盗まれたが、その仏像は「曹溪宗の浮石寺にあつたもので倭寇によつて略奪された可能性がある」との理由で、返却してはならないとの判決を出している。六百年前の事でさえ、今日の出来事のように判断するのであるから七十年前のことを昨日のことにように判断するのはむしろ当然なのである。

しかし法治国家にあつては歴史を裁けない。だから「本来あるべき姿」を実現するため、法の運用をねじ曲げて「国民情緒」による判決をおこなうのである。そしてそれを認めるのが韓国の「道徳志向性」である。

韓国は李氏朝鮮の時代、仏教を徹底的に排し朱子学が支配した国であつた。しかも朱子学の本家、明国が女真

族の後金に滅ぼされると、李朝は自らを儒教の正統な継承国と考え、清朝や周辺国、西洋を夷狄とする思想によって小中華を称え始めた。そこでは仏教はもとより陽明学も異端として徹底的に排除された。

朱子学の祖、朱熹(一一三〇～一二〇〇年)は、宋(北宋)が北狄と蔑んでいた金の侵攻を受け滅ぼされ、江南の地に逃れて南宋となった時期に、訓詁学が中心であった儒教に、経書の注釈によって思弁性を付け加え体系化し朱子学を作り上げた。そのため朱子学は生まれながら、漢民族の優越性を説き、支配階級の支配行動原理を説く排他的独善性を内包していた。それゆえに科挙に重用された面もある。

一方、王陽明(一四七二～一五二九年)は朱子学に学びながら、それを批判的に継承し、経書のみによって理に到達することはできないとして、仕事や日常生活の中での実践を通して心に理をもとめる実践的な陽明学を起した。

朱子学は朝鮮を経て日本に入って幕府の官学となったが、日本では科挙がなかったこともあって、その後、民間ではむしろ陽明学が盛んになった。朱子学と陽明学の差を理解しようと少し勉強してみると、四書『大学』にある「格物致知」という言葉の理解に典型的な差があるのだと言う。

すなわち、「格物致知」を朱子学では「知を致すは物

に格(至)るに在り」と読み、陽明学では「知を致すは物を格(正)すに在り」と読むのだという。

日本百科事典の解説によれば、朱子学では「格物」を「事物の理を十分に極め知ること」、「致知」を「事物の理を知り尽くすこと」としている。通読すると「事物の理を知り尽くして事物の理を十分に極めること」となる。

また陽明学では「格物」を「正しい行為を行うこと」、「致知」を「良知の判断を行為のなかに実現すること」としている。通読すると「良知の判断を行為のなかに実現し正しい行為を行うこと」となる。言葉としては流れているが、さっぱりわからない。

それではというので、何かの手がかりになるだろうと、日本における代表的な朱子学者と陽明学者を調べてみた。

まず朱子学者では藤原惺窩、林羅山、山崎闇斎、木下順庵、浅見綱斎、新井白石など江戸前期に著名学者が多い。幕府官学として移入された経過を示しているのである。それに対して陽明学者と言われている人物は、中江藤樹と熊沢蕃山を除くと、佐藤一斎、大塩平八郎、山田方谷、河井継之助、横井小楠、橋本左内、西郷隆盛、吉田松陰、雲井龍雄など江戸後期に活躍した人物が多い。官学(朱子学)の中心・昌平黉の儒官(総長)を勤めた佐藤一斎さえも、立场上は朱子学を掲げていたが、実際

的には陽明学者であった。そのことに陽明学の位置づけがわかる。

これらのことをふまえて、もう一度、別の「格物致知」の解説を見ると、朱子学が「知を致し」（あるべき理を極め）「物に至る」（事物の理、正しい行為に至る）としているのに対して、陽明学では「知を致す」（あるべき理を極め）「物を正す」（あるがままの現実を正す）としている。相変わらず難解である。

ただし、朱熹が経書の註釈書を完備して朱子学を体系化し、科挙の教典とした流れの中で、原理主義が強まり、同時に訓詁学に陥する道を辿ったことは想像できる。それは何事も「経書から厳格に学んで」行動を開始する風土を形成したであろう。朱子学原理主義に反するすべての思想は「斯文乱賊」として排除される世界は「教科書に書いてあることは信じない」という風土とは正反対の世界であった。

それに対して陽明学は、有るべき理に学び、あるがままの現実に合わせて改革して行く力を持っていた。「知行合一」の用語のように、知識と行動は一体でなければならなかった。

陽明学が江戸末、明治期の日本における改革運動をリードしたのに対して、朝鮮では何も改革し得なかったことに繋がったとみる見解が多いのはそのことを反映し

ているからであろう。

ところで「致知」という言葉をつい最近見た。三戸岡道夫さんに送って頂いた人間学を学ぶ月刊誌『致知』十月号である。その中に、三戸岡さんと童門冬二氏の「人生で大切なことは歴史から学んだ」という対談が載っていた。上杉鷹山、徳川慶喜、二宮金次郎らを縦横に語って読みやすい記事であるが、『致知』は安岡正篤に繋がる「陽明学」の機関誌的な役割を持つ雑誌のようである。

ついでに述べると、朱子学や陽明学が南宋から明にかけて生まれたのは、それまでの儒教が仏教や道教の持つ宗教的な哲学を持たないことを改革する動きであったと言う。脈絡なく言えば、陽明学は、道教から多くの影響を得たというし、日本の陽明学も神道と結びつき、戦後に至るまで日本の政治家の精神的な拠り所であった。

そう言えば、村上邦治さんも、出雲大社宮司千家尊福は「人は死後、幽冥界に行き、現世の行いを大國主神の審判を受けることになる」と提唱し、幽冥界を人々に教え導くことで、神官が熱望した神葬祭をやるようにして、財政基盤を確立しようとしたと言う。朱子学や陽明学が儒教に仏教、道教の哲学を導入した経過にも、似た状況があったのかも知れない。

さて、ここまで書いてみて、あまりにも儒教や朱子学、

陽明学の哲学面について無知な自分を再認識する。そして思い立って朱子学、陽明学と名の付く書物や論文を十五編ほど手元を集めてみた。しかし何回トライしても「哲学」は難しい。

それならば、まず判りやすい通俗的な情報だけでも、ネットサーフィンの数多くリストアップしてみよう。学術的には不正確でも、朱子学や陽明学が韓国や日本に与えた影響、あるいは現代韓国への影響を考える時には、かえって役に立つかも知れない。

原文通りに引用すると長くなるので抜書し要約する。

◇ 井沢元彦（作家「逆説の日本史」など）

※朱子学は史実より理想を優先する。都合によって史実を理想で書き換える。※朱子学と民主主義は水と油、朱子学が中韓の反日感情を煽っている。※朱子学の貴穀賤金の思想は経済発展を蝕む「毒」である。

◇ 司馬遼太郎（作家）

※朱子学は、宋以前の儒学とは違い、極端なイデオロギー学だった。※朱子学で「正邪」を論議すると、正の幅が狭く鋭くなり、針の先端の面積もなくなってしまう。大義名分を論じ始めると、カミソリのような薄刃を研ぎにといで、自傷症のように自らを傷つけ、他を傷つけるイデオロギー。※朱子学は、妥協を許さぬ方向へ人を駆り立てる思想、「水戸学」は、幕末の志士たちに大きな影響を与えたにもかかわらず、維新後

に水戸出身の姿は見えない。

◇ 伊東乾（東大物理卒、作曲家・指揮者）

※中韓にノーベル賞が取れない理由は、朱子学的な、実態を見ない前例遵守、権威主義にとらわれて、目の前で起きるファクトをきちんと評価することができないため、権威主義は自信喪失の裏返し。※私たち理学部で物理を学んだ者は、基本的に「人の言うこと」を信用しない。自分で確かめて、初めて納得する。

◇ 小倉紀蔵「入門朱子学と陽明学」

※一部前述したが、かつて学んだ韓国は、まさに朱子学が生きて運動している社会であったと総括している。

◇ 安藤英男「日本における陽明学の系譜」

※朱子学は官学となり、いやしくも異説を唱えるものは異端として排斥した。とにかく形式にながれ、学理の末に走って実行が伴わない。朱子学は社会における身分秩序をたいせつにする教義。

◇ 三浦国雄「朱子」

※李朝では、朱子学の最も形而上的な部分である理気説と、最も形而下的な部分である礼の両極に集中し、五百年にわたって論争を続けた。

◇ 中川明夫（尚絅大准教授）

※韓国人の考えは、何が正義で正統か、何が絶対的に正しいか、そのために何をすべきかを議論する朱子学の理気論に因っている。価値観を自己絶対善と自己絶

対正義に置くことで、妥協を許さず、相手を批判し他を傷つけるイデオロギーなので、李氏朝鮮では神学論争に明け暮れ自家撞着に陥った経緯がある。

◇ 韓国語の解説例

◇ 仏教に例えると朱子学は教宗（禪宗以外）であり、陽明学は禪宗である。朱熹が、キリスト教の教父哲学完成者トマス・アクィナスのように経典を集大成した解釈学の大家であれば、王陽明は、宗教革命を触発したマルティン・ルターのように、その経典を内面化して自己の実践（知行合一）を力説した革命家であった。

◇ その他

◇ 朱子学は封建社会を支えた学問、陽明学は行動派知識人を育成した学問。◇ 朱子学の持つ問題点……：最大の問題は「愛」が欠けていること。◇ 民主的な政治には、批判勢力は常に必要だが、朱子学は既存の政治体制を無条件で承認。◇ 陽明学は、これまでの儒教と朱子学の教えを真つ向から批判した革命的な思想。儒教や朱子学では動くことよりも知識先行の静を重視した。陽明学の場合は論よりも行動することを重視し「知行合一」を説く。自己修養による「理」を重視する朱子学とは異なり「心即理」という概念を重視して「人に備わっている活発に活動する心」を「理」とした。

文在寅政権が発足して一年半、当初の政策の結果が現

れ始めた。反日政策や親中国、親北朝鮮政策によって朝鮮半島に平和をもたらすという構想は、今でも多くの国民に支持されているが、それが具体的な成果に結びつく兆候は見えない。むしろ、その政策があるゆえに、激変する環境に対応するのに手足を縛られて自縄自縛となっている弊害が目立つ。

文在寅は理想に燃えて、① 最低賃金の引上げ（三年間で時給六四〇円から一〇〇〇円に）、② 労働時間の短縮（週六十八時間から五十二時間に）、③ 非正規職の正規職への転換、更には、④ 公共部門での八十一万人の働き口を創出、を骨子とする「所得主導成長政策」を展開している。その反面、世界の趨勢に逆行して法人税を二十二%から二十五%に引上げた。分配改善を通して家計で使える金を増やし、それにより、内需を刺激して雇用増につなげ好循環を生むというのが目論見である。

しかし経済学者の間では、話にならない、というのが大部分であった。成長政策に所得主導成長論を実験する国は世界主要国のうちどこにもない。いわば経済学者から総スカンを食らっているのに文在寅はそれを強硬に進めた。

一年半の成績表は惨憺たるものであった。誰でもわかるように、最低賃金を引き上げれば、弱者の雇用を担っていた中小企業や個人企業が一斉に人員削減に乗り出す。そのために豊かになるべき低所得層は就業の機会を

奪われ、逆に貧困を加速してしまふ。それが一年後の韓国の統計で実証されたのである。

所得下位二十%の「第一階層」の所得が前年同期比八%減、下位二十〜四十%の「第二階層」の所得が同四%減になってしまったのに対して、上位二十%の「第五階層」の所得は同九%増を記録したのである。目標と逆の成果、エミール・クーエの「努力逆転の法則」の世界である。

所得の減少ばかりではない。肝心の雇用状況が極度に悪化している。世界が好景気を謳歌して中、韓国ではリーマンショック直後の悲惨な状況に近づいている。

また労働時間週五十二時間への規制や法人税の引き上げは、多くの企業に恐慌をもたらし、もはや韓国国内への設備投資をやめて、一齐にベトナム等へ逃げだそうとしている。設備投資が止まっただけでもGDPへの影響が大きいのに、仕事が海外に流れては、どうにもならない。その上、雇用創出政策として八十一万人に及ぶ公共部門の採用拡大を図っているが、地方公務員に求職活動が集中しすぎてしまい、結果的に失業する若者が増えてしまったという。これもエミール・クーエの「努力逆転の法則」である。

このような悪循環がいま韓国を覆って、経済活動そのものが危機的な状況にある。それにもかかわらず、大統領スタッフは事実を示す統計資料を理想に合わせて（ねじ曲げて）解釈し、過去十ヶ月、連続して「景気は回復

中」と言い続けて来た。そのために女性の統計庁長官を更迭し統計調査方法まで変更して、軍事政権並に言論統制を強化したが、恣意的に、「あるがままの現実」を「あるべき理想」に書き換えてみても、政策破綻は隠しきれない。

また、文在寅政権は建設中の原発の中断や稼働中の原発も将来的に廃炉とする「脱原発」宣言を行った。

まず電力が不足し始め、火力発電の燃料費増で電力会社が悲鳴を上げている。いずれ電力料金的大幅値上げは避けられない。

李明博政権時にサウジアラビアの原子力発電所工事を日本提案の六割（二兆円）で受注したことを「積弊」として、国内的に大問題にしたところ、サウジアラビアの皇太子から一喝された。その後に四十兆円ほどの膨大な工事が控えているのである。文在寅政権は平謝りするしかなかった。そうでなくとも、今後「脱原発」を宣言した韓国から誰が原発を購入するというのか。原子力関係の技術者の国外流出が続いている。

最低賃金を引上げる、労働時間を短縮する、非正規職を正規職に転換する、公務員を増員して良質の職場を創設する、原子力発電をやめる……これらは、いずれをとつても「自己絶対善」、「自己絶対正義」であり「善政」を目指している。だから、文在寅の支持率は、歴代大統領

の中でも特出して高く、就任一年間ほぼ八十%台で推移した。

しかし、惨憺たる経済実績の前に、急激に支持率が落ちて下している。

それに対して、文在寅が持ち出したのが、もうひとつのポピュリズム、親北朝鮮政策である。南北統一は韓国国民の夢である。統一して結果がどうなるか考える前にとにかく「絶対善」で、その政策を掲げると支持率が無条件に上昇する。平昌オリンピックのアイスホッケー合同チームがそうであった。ましてや南北朝鮮首脳会談は特効薬であった。四月、五月の首脳会談は六十八%まで下がっていた支持率をいきなり八十三%まで回復させ、九月の首脳会談でも四十九%まで下がっていた支持率を六十一%まで回復させた。その後、欧州歴訪で点を稼いだにもかかわらず、文在寅の親北朝鮮政策が国際的な支持を得られない状況が明らかになると、五十%の支持率維持が厳しくなっている。

その上、執筆中の十一月九日、文在寅大統領はついに経済の不調を認め、経済政策のトップ、経済副首相と大統領府政策室長を一気に交代させた。ところが、ここで旧来の経済運営に戻るのかと思うと、その後任は文大統領の最側近とされる洪楠基と金秀顕で、従来の政策基調を更に協力に進めるのだと言う。明らかに聞き直りの人事で、賭けに出たのである。これでますます支持率

は低下するであろう。

原理主義者は状況が厳しくなればなるほど、原理的な政策を固執する。もはや引き返せない。行き着くところまで行くしかない。

ところで、韓国国民から熱烈に支持されている文在寅の親北朝鮮政策が成功して、韓国と北朝鮮が統一したとすればどうなるであろうか。

ごくごく単純に言えば、両地域が「たして二で割った状態」に近い行きのだろう。そうなれば、北朝鮮側の生活水準があがり、その反面韓国側では生活水準が下がることになる。だから韓国の若者たちの世論調査によると、約半数は北朝鮮のためにお金を使いたくないと答えている。

しかし、実際は足して二で割るような単純な発想が最も危険である。そもそも党派抗争に明け暮れた歴史の朝鮮半島である。おそらく一方が他方を完全制圧しないかぎり、統合など夢のまた夢である。

韓国側としては優位な経済力を持つて北朝鮮を取り込み、あわよくば、核兵器までも自己のものとしたいであろうが、北朝鮮が簡単に体制を崩壊させるはずがない。

原理主義者は「自己絶対善」と「自己絶対正義」を掲げている間は、楽観的で勢いがある。しかし統一してから党派抗争の最先端に立つのが彼らなのである。